

GRANDCUBE

Osaka International Convention Center

PRESS

Vol.30 2020 Spring



大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)
開業20周年記念 特別対談

設計者と施工者が語る 最先端技術を引き出した 天才・黒川紀章の設計思想

[株式会社黒川紀章建築都市設計事務所 執行役員 高橋 守男]

[株式会社竹中工務店 執行役員 広島支店長 藤永 弘]

The Document GrandCube

ぎゅぎゅっと徳島体験フェス
とくしまっせ

中之島ビジネスフロントライン
こども本の森 中之島



2020年4月、大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)は
おかげさまで、開業20周年を迎えました。

これまでご利用いただいたお客様をはじめ、
ご支援いただきました地域の皆さん、
関係者の皆さんには深く感謝申し上げます。

これからも、大阪の発展や国際化、
地域の振興に貢献できる施設を目指してまいりますので、
ご支援、ご愛顧のほどよろしくお願ひ申し上げます。



開設20周年に寄せて

大阪府知事
吉村 洋文



大阪府立国際会議場が開設20周年を迎えました。

平成12年の開設以来、ここ大阪・中之島の地で、学術、芸術及び産業の振興に資する国際会議等を開催してきたほか、地域経済の発展に貢献する施設として、さまざまな展示会、イベントなどにもご利用いただいてまいりました。

会議、イベント等の主催者として、当会議場をご利用いただいている皆様、施設運営にご協力いただいている関係先の皆様、そして、ご来館いただいている多くの皆様に感謝申し上げます。

さて、中之島は、古くから水の都大阪の文化、経済の中心地として栄えてきたばかりでなく、2000万人の人口を有する関西の中心にあり、当会議場は、この地の歴史的、地理的な背景も活かしながら、これまで各種の国際会議、展示会、イベントなどを開催してまいりました。

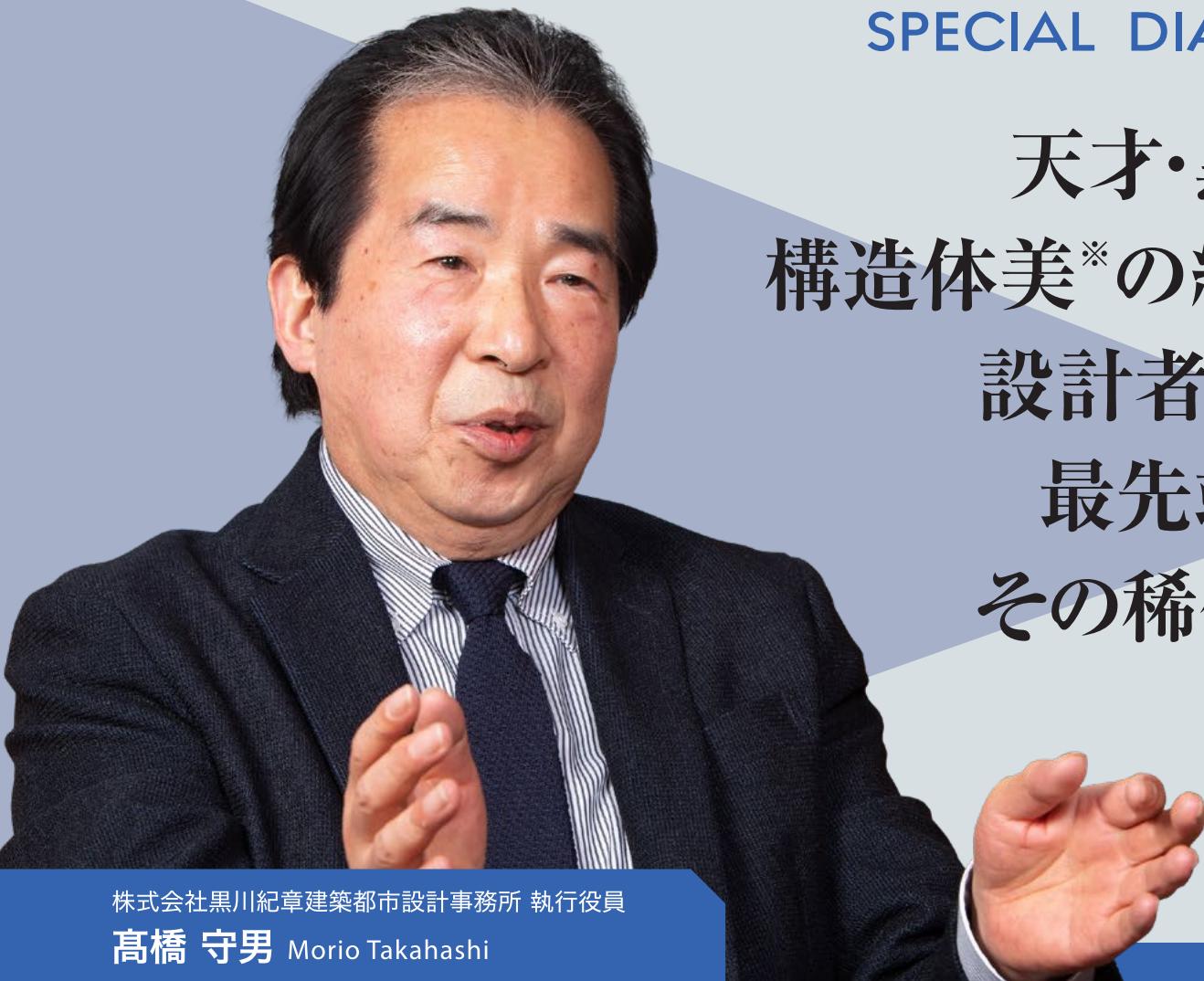
平成20年には、世界首脳クラスの会議である「G8財務大臣会合」を開催し、昨年6月にはG20大阪サミットの関連会議である「G20シェルパ会合」、G20の関連イベントである「Super City Smart City Forum 2019」の会場になりました。また、平成27年の「第79回日本循環器学会学術集会」はじめ、大規模な医学系会議を多数開催し、今日、日本を代表するコンベンション施設として確固たる地位を確立しています。

大阪はこれから、2025年大阪・関西万博の開催、さらには夢洲におけるIR施設の誘致と、成長・発展の流れが途切れることなく続いていきます。そのようななか、国際会議をはじめとするMICEは、大阪の成長には欠くことができないものです。大阪府としては、今後とも官民一体となって、MICE誘致に全力で取り組み、「世界の中で躍動し、成長し続ける大阪」の実現をめざしてまいります。

当会議場についても、今後も引き続き、都市型MICE施設として多くの国際会議を開催し、都市格の向上や地域の活性化といった役割を果たせられるよう、充実に努めてまいりますので、皆様方の一層のご理解とご協力をお願いします。

最後になりましたが、開館以来、一貫して運営を担って来られた株式会社大阪国際会議場の役員、従業員の皆様のご尽力に対し感謝を申し上げ、20周年の記念のことばとします。

天才・黒川紀 構造体美※の結晶「グ 設計者と施工 最先端技術 その稀代の設



株式会社黒川紀章建築都市設計事務所 執行役員
高橋 守男 Morio Takahashi

西 暦2000年、G8サミット(主要国首脳会議)の誘致を目標に、建築界の巨人・故黒川紀章氏率いる黒川紀章建築都市設計事務所設計者団(黒川JV)設計、竹中工務店を代表企業とする共同企業体10社(竹中JV)施工により、旧大阪国際貿易センター跡地に完成した大阪府立国際会議場。「グランキューブ大阪」の名で親しまれているこの建物は、20年を経た今も中之島のシンボルとして知られている。今回は、3年の工事期間を共にした“戦友”である、株式会社黒川紀章建築都市設計事務所の高橋守男執行役員と、株式会社竹中工務店の藤永弘執行役員広島支店長にお越しいただき、工事中のエピソードやグランキューブ大阪への思いなどを語っていただきました。

設計思想は、 武者震いがするほど“規格外”

高橋 大変、ご無沙汰しています。約20年ぶりですが、ここに来ると工事をしていた当時のことがよみがえります。設計から施工まで、挑戦の連続でしたね。

藤永 はい。38カ月の間、一緒に仕事させていただき、本当にありがとうございました。当時はがむしゃらであり覚えていないのですが、難しいお題を出されたな、ということはよく覚えています(笑)。

高橋 設計もかなり苦心しました。まず、大阪府からの設計条件として、異なる4つの用途を満たす大規模な施設が求められていました。敷地は分散配置出来るほど広くなく、限られ

た面積に設計しなければならないことから、コア柱と呼ばれる太い大きな柱を用いて大規模な施設を積み重ねることにしました。

これは黒川紀章が1960年代から考えている設計手法です。皆さんによく知られている「中銀カプセルタワー」では2本のコア柱の周りにカプセル住戸を配置しましたが、グランキューブ大阪では6本のコア柱を用い、コア柱にはエレベーターやPS・EPSなど設備系の縦の動脈が入っています。各コア柱間のガラス部分にはエスカレーターを設置し、人の動きが見えるようにしました。また、外観各層の大きなトラスは設計条件の4つの用途を満たすように設置し、メカニカルウェハーと呼ぶそれぞれの大空間に必要な空調などの設備フロアとしています。

さらに、地面から直接建物を建てる圧迫感が出るため、1階部分を高さ15.5mのプラザ(ピロティー空間)としているのも大きな特徴となっています。

藤永 施工でまず直面した問題は、その構造の大きさです。コアを構成する鉄骨柱1本が単体で30tを超えるんですよ。当時、超高層ビルで使っていた最も大きいタワークレーンでも吊れなかったんですから。また、地上37mの高さの柱のない空間の上に、2,700名を超えるキャパシティを持つ大会議場を乗せるなんて、とんでもない考えに思えました。長居陸上競技場など、数々の大型施設を手掛けてきた百戦錬磨の上司でさえも、「武者震いがする」と言うほどでした。工事を担うことになった10社の施工会社他、設備系会社も、「ここまでやるか!」

※「構造体美」黒川紀章氏による天才的設計と、それが引き出した最先端の施工技術とのカップリングによって初めて実現を見た、独自の構造体を有する建築物としての美しさのこと。

章が遺した、 ランキューブ大阪」。 者が今紐解く、 を引き出した 計思想とは?



株式会社竹中工務店 執行役員 広島支店長
藤永 弘 Hiroshi Fujinaga

という感覚でした。計画段階では、この無柱空間の造り方を8つの支え方と8つの構築の仕方、計64パターンで検証しました。そして、どのパターンを採用すれば、設計者の構想に最も近い造り方ができるかを検討していったわけですが、施工は予想通り、非常に難しかったです。

強靭な構造体の設計が 新しい工法を生み出した

高橋 このプロジェクトはいろいろな観点から難しい仕事でしたね。ここは南北両側に川があって、少し掘ると水が出る。通常は、地下を造ってから地上階を造っていきますが、そうすると地下が浮き上がってしまう……。

藤永 はい。そこでまず、1階の床を造り、そこから地下1階、2階、そして基礎へと進み、地上階も並行してどんどん造って重しをかけていったわけです。

高橋 地下が浮き上がらないようにするために、竹中JVならではの最新かつ最適の工法で進めていただきました。

藤永 もうひとつ難しかったのは、6本のコア柱を垂直にすることでした。柱の間に大きな

床を造るなどして過重をかけていくと、柱が過重をかけた方に寄るのは当たり前の話ですが、それがどの程度かが分からぬ。ですから、変形量を予測し、過重によって柱が内側に寄るのなら柱を外向きに建てていき、最終的に内側に寄って垂直になるような建て方をする必要がありました。もちろん、垂直に柱を建てることは可能ですが、そこへ至るまでのアプローチが構造体に反映されますから、一緒にどの順番で積み上げていくかを考えていきましたね。

自慢させていただくと、結果的には小指1本の差で合いました。設計者さんとキャッチボールをしながらやったからこそ、成し遂げられたことだと思います。

高橋 黒川紀章と共に、イギリスのオーヴ・アラップという構造設計事務所と協働できたのも大きかったと思います。

藤永 おっしゃるとおりです。それからもうひとつ、施工者の間で悩ましかったのは、この工事が高所作業の固まりであったことです。安全第一の観点から、取り敢えず、足場を必要とする仕事を減らすこと、すなわち足場を作らないという方針で挑みました。最初から高所に人を上げなければ落ちない、という理屈です。

ですから天井は、床の上で天井板の下地や設備をあらかじめ取り付けてジャッキで上げて固定しました。つまり、通常、後で行う仕上げの工程を先に造ったわけです。メインホールの約700tの2階客席も、舞台上で造って70mほど台車で横に転がした後、吊り上げて設置しました。ドーム型の特別会議場は、ドームを床で置んで造って、設置する時に開いたんですよ。

こうした工法が可能だったのも、トラスという構造体だったからこそです。この工法を採用しても、耐えうる構造体を設計してくださっていたからこのような発想が生まれたんです。

シドニーのオペラハウスは長い間、建築不可能と言われていましたが、新しい形に挑戦する施工者の熱い思いが最後にはあの建物を造り上げたと語り継がれています。我々としては、その例に近い設計を施工に受け渡していただいたと思っています。この素晴らしい設計を絶対ものにするぞ!という意気込みで取り組みました。

高橋 竹中工務店さんは、それまでも素晴らしい建物を手掛けられていましたが、その比にならないほど難易度の高い、施工技術を駆使してくださったと思います。

藤永 グランキューブ大阪の施工では、当時日本では用いられていなかった技術を採用する必要がありました。それほど、意匠的にも鉄骨の強度や杭の健全性といった構造的にも、素晴らしい設計だったのです。

【最適な解決を目指し、夜な夜な悩みました】

高橋 設計に当たっては、黒川の構想を、デザインと共に構造や法律、コスト、施工性といったあらゆる面から検討して、理想形を実現性のあるものにしました。しかしながら、採用していない案もたくさんあるんですよ。たとえば、日本の伝統工芸の一つに「重箱」がありますが、重箱のイメージからコア柱の外装を黒の石貼りにする案もありました。当時は白色系やグレー色系などの建物が主流だったため、公共

えたら、と考えたのです。それは、今も構造的には実現できますよ。

藤永 川との関係は、我々にもいろいろな話が入ってきました。最上階の水盆の中に柱が立つモニュメントは、浪花の川面に立つ葦原をイメージしたものでしたね。

高橋 水をただ溜めておくだけでは芸がないので、淀川の川面に生えている葦のイメージとともに川の流れを表現するために「せせらぎ」を造ってもらいました。

藤永 その芸のために、我々はどれだけ苦労したことか(笑)。でも、あのモニュメントは、照明を当てるとものすごくきれいですよね。みんなで、夜な夜な悩みながらやった甲斐がありました。

高橋 そういうえば構造方式も、当初考えていたものとは違うんです。基本設計中に阪神淡路大震災が起こり、構造方式を変えたんですよ。

した。設計方針と、施工との最終調整など対応に追われました。我々は大阪府の外郭団体の工事監理者と共に工事監理に当りましたが、とにかく細かな意思疎通、すり合わせなど調整が多かったです。

また、黒川とはスイッチ、コンセントや消火器の位置など、インテリアデザインの細部まで常に確認を取る必要があり、私自身黒川とのバトルの連続で胃が痛くなる思いでした。(笑)

藤永 お互い、向かっている方向は同じなのに、立場によってやることは違いますから、難しいですよね。実は私も、監理事務所の方とやり合ったことがありますよ。

高橋 それは知りませんでした。

藤永 工事中にはいろいろなことがありましたが、上棟式を終えると、峠を越えたと実感しました。

施工は、工法パターンを検討して決定するまでの初期段階が7割、決定してから立ち上げまでが3割です。何しろ初めてのことばかりなので、この間は、計算通りになるかどうか、とドキドキなんですよ。ようやく上棟式にこぎつけ、当日は財界の方々にもお越しいただき、盛大に実施しました。白装束をまとった鳶が梁を最上階に上げ切った時は、やっとここまで来た!と胸をなでおろしました。

高橋 苦労の甲斐があったと思うのは、地方自治体の施設ながら、他の自治体には見られない高い稼働率ではないでしょうか。

今後50周年、100周年に向か、さらに大阪府の皆様に愛される施設になって行って欲しいなと思います。

藤永 私も共通した思いがあります。完成時は最先端ですが、20年経っても古びた印象にはならなかった。100年後には「あの時代にこんなことができたのか」と言われるような建物になるのではないかでしょうか。しかし、この構造体は建てた者から言わせてもらえば、100年どころの話ではありません。よほどのことが起こらない限り、グランキューブ大阪の構造体は、500年後、1000年後も残ります。そういう意味では、後に歴史的価値も加わる建物だと思います。

しかも、この構造体は本当に美しいんです。私は、グランキューブ大阪ほど美しい構造体を持っている建物を他に存じ上げません。一枚ずつ外装を剥がして構造体を見せたいぐらいです。難しい仕事でしたが、非常にやりがいのある素晴らしい経験でした。なぜ、「プロジェクトX」に出られないのだろう、と思ったぐらいですよ(笑)。

高橋 同感です。今後は随時リニューアルをされていかれると思いますが、我々の思い入れのあるこのグランキューブ大阪を大切に維持していただけたら、これほどうれしいことはありません。

(取材日:2020年2月3日)



施設で黒色は目立ち過ぎるのではと考え採用しませんでした。

また、現在では京阪電鉄中之島線が中之島駅(大阪国際会議場前)まで伸びていますが、当時は地下鉄の延伸はまだ計画段階で、開通時期も未定でした。それでも、将来の利便性を考慮に入れて、地下の構造体は地下鉄駅構内への直接の接続を考慮した造りとしました。しかし、その構想は結果的には叶わぬままでした。

藤永 あの頃は、サミットを意識していましたよね。迫撃砲が当たっても脱落したり貫通したりしないガラスを使うようにも言われました。我々は、サミット用の横断幕のデザインまで考えましたよ。

高橋 サミットを意識した構造でいえば、プラザの大空間から橋を架けて、堂島川に直接降りられるようにする案もありました。そこから船でVIPの方々に大阪の風景を楽しんでもら

例えばアンボンドプレースによる制震構造の採用はその一つ。また、コアの中の柱はボックス柱でしたが、震災後に全て分厚いH型鋼に変更しました。最も厚い柱は85mmで巾1.2mぐらいでした。

藤永 1.2m角の柱は、特注でも難しい規格ですね。実は、建築中に台風が來たので、養生のために作業員に現場へ行ってもらったんです。ところが、私が後で駆けつけると誰もいない。みんな、H鋼の中に入ってる風雨を凌いでいたのです(笑)。

【完成時は最先端、100年後は歴史的建造物に】

高橋 設計も大変でしたが、工事着手前は、大阪府から与えられた予算とスケジュールが可能かどうかを検討するのに時間を費やしま



ぎゅぎゅっと徳島体験フェス

とくしまっせ 1月13日(祝)

迫力満点の阿波おどりと
徳島の“いいもん”が集結

1月13日(祝)、「とくしまっせ～ぎゅぎゅっと徳島体験フェス～」が開催されました。徳島の魅力に触れられるこのイベントは、毎回大人気。今回も大勢の人々が来場し、阿波おどりをはじめ、徳島の伝統芸能や料理、特産品を楽しみました。



飲食、物産のブースを設け 縁日の雰囲気を再現

場内に響き渡るのは、笛や太鼓、鉦、三味線が奏でる阿波おどり独特のお囃子。花道から前方ステージでは、赤や黄の浴衣に編笠を深くかぶった女性、そろいの法被をまとった男性が一糸乱れぬ隊列を組んだり、奔放に飛び跳ねるいなせな踊りで観客を魅了します。「あ、やっとさー、あ、やっとやっとー」という掛け声も祭りの雰囲気を盛り上げるのに一役。

楽しげな囃子の音色も手伝って、見ている人たちも「踊らにや損々」と祭り気分がかきたてられている様子です。

徳島県が2018年から毎年開催し、昨年から大阪国際会議場で実施している「とくしまっせ～ぎゅぎゅっと徳島体験フェス～」。3回目を迎えた今回は、3階のイベントホールで大々的に行われました。

場内にはベンチが配置され、その周りには徳島県の特産品や飲食物を販売するブースが多数出展されました。徳島県の海陽町や



美波町のブースには太刀魚のせんべいやみりん干しが、勝浦町ブースには、ゆず酢やすだちばん酢、みかんなどがずらり。東みよし町のブースからは、イノシシやシカの肉を使った「ジビエフランク」を焼くいい匂いが漂い、その隣には、鶏だしが決め手の「半田そうめん」、徳島ラーメン「支那そば三八」が出展。温かい食べ物を求める人たちで、ブース前には長蛇の列ができていました。

関西の大学に通う徳島出身の学生のブースでは、徳島県内で大学生に人気の飲食店や穴場の観光スポットを紹介するほか、徳島県農業大学校でつくられたサイダーやアイスを販売。また、イベントをインスタグラムに投稿した来場者には景品をプレゼントするという若者ならではの発想で、イベントを盛り上げ



ていました。

子どもから高齢者、外国人をも魅了する阿波おどり

徳島の魅力発信を目的に行われているこのイベント、メインはもちろん阿波おどり。関西阿波おどり協会に所属する12連が次々に登場し、それぞれ趣向を凝らした演舞を披露しました。

阿波おどりの面白さは、各連で演出が異なるところ。花道から大勢で登場したり、ホール前方のステージで芝居を演じたり、男性がステージから花道へ身のこなしや表情も粋に勢いよく飛び出して踊ったり。

踊り手は、よちよち歩きの子どもから高齢者までと幅広く、外国人の姿も見られました。京都在住でスペイン国籍のポンセ・ナチヨーさんもそのひとり。昨年6月から、奈良の「大仏連」で阿波おどりを楽しんでいます。「阿波おどりは、みんなでワイワイ楽しめて、ニコニコ笑顔になれる踊り。うまく言えないけど、踊ると心が喜ぶんです」と、きれいな日本語で阿波おどりの魅力を話してくれました。

2019年11月に開催された「全国阿波おどりコンテスト」で優勝した「なにわ連」所属の相良真理さんは、「踊りは15分ほどですが、体力を使いますし、みんなに見られるので



緊張します。すごくしんどいのですが、やり終えた時の達成感は格別。やめられません」と笑顔で答えてくれました。落語家の皆さんのが所属する「はなしか連」からは、桂文昇さんが参加。「はなしか連のほかのメンバーはみんな、成人式に闇営業に行ってます」という軽妙らしいジョークで笑いを誘いました。

すべての連の演舞が終わると、最後にこの日の参加連と、当日実施された体験プログラム「阿波おどり教室」の参加者で結成された「にわか連」による総踊りが行われました。四方の入り口から入場した大勢の踊り手が花道やステージを埋め尽くし、見事なチームワークで踊る光景は圧巻です。にわか連の一員として総踊りに参加した男性は、「大阪市内で阿波おどりのイベントがあるたびに行っています。今日も、楽しませてもらいました」と満足した様子です。



伝統芸能や工芸の 体験プログラムも充実

このイベントでは、阿波おどりのほかにも、徳島の伝統に触れるプログラムが用意されていました。阿波人形浄瑠璃研究会青年座は、人形浄瑠璃「三番叟」を上演。6人の黒子が3人1組で2体の人形の手足、頭を

操り、来場者を楽しませ、阿波おどりの合間に人形遣いを体験できるワークショップも行いました。このほか「JAPANBLUE」として世界に知られる阿波藍染めの体験コーナーも開設され、ハンカチ染めなどを体験する親子でにぎわいました。

この日の来場者は約3,000人。伝統芸能からグルメまで、徳島の魅力が満載のイベント

会場は、終日祭りのようなにぎわいを見せました。



・（ 大会場を貸し切り、阿波おどりの雰囲気を再現できました。 ）・

毎年1回、大阪で開催している徳島関連のイベントは、今年で3回目を迎えました。初回は1000人規模の他会場で実施しましたが、予想以上に多くの方々に来場していただいたので、2回目はキャバや日程などを検討し、大阪国際会議場のメインホールで行いました。それが皆さんに好評だったので、今年も引き続き、大阪国際会議場での開催を決定しました。



会場をイベントホールに変えたのは、これまで昼時をまたいで実施していたにもかかわらず、飲食を提供できていなかったからです。今回は、飲食ブースが出来るイベントホールを使うことで課題を解決できました。同時に、

徳島県政策創造部 関西本部 企画連携担当
高田 朋枝 主任
※肩書きは取材当時のものです。

さまざまな企画も実現することができました。

例えば、メインホールでの開催時は、踊りはホール内、物販はホワイエで、と分けていましたが、今回はひとつの会場で阿波おどりと物販、ワークショップを行うことができました。また、花道の両端にベンチを設けて、本場の阿波おどりの桟敷席を再現したり、ブースを出展して縁日のような雰囲気を出せたのもよかったです。イベントホールの一部を出演者の控室にできたので、運営もスムーズでした。

こうしたイベントを開催する狙いは、徳島の魅力をPRすることです。大阪は今後、ワールドマスターズゲームズや大阪・関西万博といった国際的なイベントが開催され、人や物の流れが活発になると予想されます。大阪は徳島から近く、徳島県人会活動や阿波おどりの普及活動も活発に行われていますが、このイベントを通して、本県にゆかりのある方々以外にも徳島の伝統や特産品などを知っていただき、「徳島ファン」を増やしたいと思っています。そして、ゆくゆくは誘客につながれば、と考えています。

NAKANOSHIMA BUSINESS FRONTLINE



中之島に子どものための施設が誕生。 棚いっぱいの本と魅惑のプログラムで 子どもの想像力をかき立てる。—こども本の森 中之島—

中之島の著名企業・施設を大阪国際会議場社員が訪問し、その歴史や活動を紹介する「NAKANOSHIMA BUSINESS FRONTLINE」。第5回は、中之島に新しくオープンの安藤忠雄氏設計の児童向け施設「こども本の森 中之島」の前川千陽館長に、営業部誘致課主任の田中良樹がお話を伺いました。

ここは、“物語の聖地”

田中 このたびは、お時間を頂戴し、ありがとうございます。貴館は蔵書約1万7千冊のことですが、「図書館ではない」とお聞きしています。施設のコンセプトをお教えいただけますか？

前川 コンセプトは「物語の聖地をつくる」です。この建物を設計し、大阪市に寄贈された安藤忠雄先生も「本を読むことは心の中を旅すること。想像力の翼を広げて、ページ

の向こうに広がる世界へ行ってみよう」とおっしゃっています。ここでは、図書館のような本の貸し出しありませんが、自由に手に取って楽しんでいただきたいと思っています。

田中 本の配置の仕方がユニークですが、どのような狙いがあるのですか？

前川 通常の図書館は、十進分類法に基づいて本を並べますが、当館では「自然と遊ぼう」「動物の好きな人へ」というような分け方をしています。例えば、「動物の好きな人へ」のエリアには、カバの表紙の本があり、その横には動物図鑑があります。カバの表紙に惹かれて読んだお子さんが、図鑑を手にとり、さらに動物のお医者さんの読み物へと興味をかき立てられ、好奇心を満たせるような配置を意識しています。さらに、絵本から読み物へと誘導するような仕掛けにしています。

田中 子どもたちの成長にも配慮された配置ですね。

前川 そうなんです。壁面いっぱいに本を並べて、表紙が見えるよう飾っているのも当館の特徴です。図書館の本は、縦に収まっていて表紙は見えませんが、表紙のかわいい絵が見えると、文字の多い難しい本でも興味を持つて気軽に手に取ってくれると考えています。

田中 確かに、表紙が見えると手に取って見たくなります。

図書館にはない楽しみを

田中 前川館長は、これまで図書館の館長を歴任されていますが、今回、図書館ではない施設の立ち上げに関わる中で、苦労されたことはありますか？

前川 苦労より、新しい発見の方が多かったです。というのもこの施設は、企業ライブライアリーや空間づくりから選書までを手掛



ける(有)BACH、(株)長谷工コミュニティ、そして弊社、(株)図書館流通センター(TRC)の共同企業体「TRC&長谷工meet BACH」が指定管理者として運営しています。弊社は図書館の管理運営等に携わってきました。今回、(有)BACHと協働することで視野が広がりました。特に、図書館と異なる展示方法には、スタッフも刺激を受けたようですし、私も勉強になりました。

田中 円形スペースでは、プロジェクションマッピングで物語の登場人物を動かすことですが、それも面白い試みですね。

前川 ありがとうございます。芸術・文化の発信もしていきたいので、劇団の方々に、当館のスペースを縦横無尽に使っていただくようなプログラムも考えています。

田中 いろいろな仕掛けを考えてらっしゃるのですね。



株式会社大阪国際会議場 営業部 誘致課主任 田中良樹

前川 図書館で取り組んで来たことに、さらに、新しい取り組みもしたいと思っています。本に描かれている料理を子どもたちと一緒に作れたら楽しいだろうと思っています。「ぐりとぐら」に代表されるように、絵本にはおいしそうな料理がたくさん出てくるので、それを楽しんでもらいたいですね。当館だけでは無理ですが、近隣のお店と一緒に実現できたらいいなあと思っています。「何度も来たい」と思ってもらえる施設にしたいので、当館ならではの行事を提供して、楽しい思い出をつくってもらいたいと考えています。

田中 ワクワクしてきました。私も2歳と4歳の子どもがいるのですが、ぜひ一緒に来たいですね。

中之島の一員として

田中 中之島という地域については、どうお感じですか?

前川 中之島は大人向けの施設は充実していますが、子ども向けの施設はあまりないよう思います。当館はお子さまと保護者の方々が一緒に利用できるので、お子さま連れの



こども本の森 中之島 前川千陽館長

ご家族にはこれまで以上に中之島を楽しんでいただけたと思います。また、世界中から安藤先生の建築を見に来られるので、このエリアはさらに賑わうのではないかでしょうか。

田中 我々も地域活性化に向けて、中之島の施設や企業の方々とイベントに参画しています。今後そういう活動もお考えですか?

前川 中之島では、企業や施設、団体が一体となって行事をされているので、ぜひお仲間に入れていただきたいと思います。実は、既に京阪HD(株)さん、大阪市中央公会堂さんのコラボレーションも予定しています。

田中 それは楽しみですね。弊社もぜひ、何かで一緒にできればと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。 (取材日:2020年2月12日)



大阪府立中之島図書館の外観と館内風景
[図版提供:橋爪紳也コレクション]

私は、美術館や博物館などが集中する中之島を「ミュージアムアイランド」、すなわち「博物館の島」と呼び、各施設のネットワーク化をはかることを提案してきた。特に注目したいのは、中之島に所存するミュージアムの多くが、民間からの支援を得て開館した点である。たとえば国宝や重文を含む陶磁器の名品を収める大阪市立東洋陶磁美術館には、安宅産業の優れたコレクションが展示されている。

一方、大阪市立科学館は「市制100周年事業」に応じて、関西電力が建設のうえ寄贈した施設である。また現在、工事途上の新しい美術館の収蔵品にも、同時期に民間から寄託された素晴らしいアート

大阪には独自の寄附文化がある。近代以降高い志をもつ企業や篤志家が現れ、さまざまにメセナ活動を展開した。そのなかで、各時代における最良の成果が中之島に集積している。「博物館島」である中之島は、島全体が「企業メセナのミュージアム」でもあるのだ。

中之島 トリビア

寄附文化と図書館

NAKANOSHIMA TRIVIA

第5回



橋爪紳也 Shinya Hashizume

大阪府立大学研究推進機構特別教授
大阪府立大学観光産業戦略研究所長

EVENT INFORMATION

グランキューブ大阪で今後開催予定のイベントをご紹介します。

COMING-UP [開催予定]

SNL2020

Fourth International Workshop on Symbolic-Neural Learning

Tuesday, June 30 and Wednesday, July 1, 2020
Osaka International Convention Center 12F, Osaka

Supported by:

Additional Cooperation from:

<https://www.ids.osaka-u.ac.jp/snl2020/index.html>



イベントカレンダー
<https://www.gco.co.jp/event/>

※新型コロナウィルス(COVID-19)の影響により、開催中止、または延期となる場合があります。最新の情報は、主催者様へお問合せください。

2020. 6/30-7/1

Fourth International Workshop on Symbolic-Neural Learning (SNL-2020)

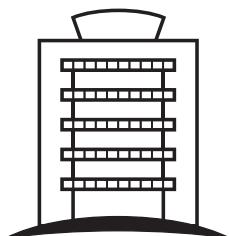
SNLは、言語や知識、データベースのようなシンボリックな構造とニューラルネットワークを融合する研究に焦点を当てた国際ワークショップです。今回のテーマは “Beyond modality: Researches across speech, vision, and language boundaries” です。音声・画像・言語およびその複合領域において第一線で活躍されている研究者にご講演いただき、Society5.0が目指す未来社会について考えます。招待講演や参加申込などの最新の情報につきましては、ホームページをご覧ください。

<http://www.ids.osaka-u.ac.jp/snl2020/>

[SNL-2020 実行委員長 大阪大学 産業科学研究所 教授 八木 康史]

CORPORATE SLOGAN

開業20周年記念コーポレートスローガン



人とつながる 世界とつながる

お客さまをつなぎ、地域とつながり、すべての人とつながる空間でありたい。

大阪・中之島の地において、多くの世界が感じられる施設でありたい。

株式会社大阪国際会議場は、このような想いで、2020年の開業20周年を記念し、

コーポレートスローガン「人とつながる、世界とつながる」を掲げました。



（電車）

- 京阪中之島線「中之島（大阪国際会議場）駅」（2番出口）すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約10分
- JR東西線「新福島駅」（2・3番出口）から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」（3番出口）から徒歩約10分
- 大阪メトロ「阿波座駅」（中央線1号出口・千日前線9号出口）から徒歩約15分

（バス）

- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、大阪シティバス（53系統 船津橋行）
または（55系統 鶴町四丁目行）で約15分、「堂島大橋」バス停下車すぐ
- シャトルバスが、「リーガロイヤルホテル」とJR「大阪駅」桜橋口の間で運行しており、ご利用いただけます（定員28名）
- 中之島ループバス「ふらら」で地下鉄・京阪「淀屋橋駅」（4番出口・住友ビル前）から約15分

株式会社 大阪国際会議場

OSAKA INTERNATIONAL CONVENTION CENTER CORP.

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番51号
Tel.06(4803)5555(代表) Fax.06(4803)5620



GRANDCUBE PRESSは、
地球上にやさしい広報誌。
この印刷物は環境に配慮した
植物油インクを使用しています。